Vol. 31 (2018年2月15日発行)

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会 長野市大字南長野字宮東 452-1 長野県土地改良会館別館 3 階会長 赤羽 昭彦



寒さ厳しき折、皆様には年度末に向け、お忙しい中いかがお過ごしでしょうか、本年も宜しくお願い申上げます。

今回は、昨年11月20日(月曜日)塩尻市、長野県総合教育センターにおいて、長野県農業農村多面的機能発揮シンポジウム「我が郷の土・水・人の繋がりを考える集い」が開催された内容と、茅野市の下古田区農地・水・環境保全対策協議会を紹介します。



長野県農業農村多面的機能発揮シンポジウム

「我が郷の土・水・人の繋がりを考える集い」

第1部『農業遺産や地域固有の資源を活かした持続可能な地域創生』

基調講演

一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表 大和田 順子氏

講演要旨

「農業遺産や地域固有の資源を活かした持続可能な地域創生」と題して、世界農業遺産、日本農業遺産といった農業遺産の話を織り交ぜて進められました。

(長野県内の事例紹介)

【池田町の事例】

グリーンツーリズムの話で、健康、休息、食事を通して、池田町での滞在 によりストレスが減るかのモニタリング



行い、一泊二日で改善したか測定している事例です。

地元の農産物で食事、農作業を体験、五感を使った生活、ストレス解消に効果が認められ、池田町の環境(山林、田畑)を活用した健康法は、都会の企業が注目しています。

【信濃町の事例】

森林セラピー(長野県11筒所、全国62筒所)の事例です。

癒しの森を活かした都市部の企業と連携した福利厚生に活用しており、役場が窓口になって進めています。

長野県は、グリーンツーリズムの先進地です。

日本は労働人口が減っているのに、医療費など福祉費用がかさんでいます。

企業はメンタルヘルスを進めるためにも、環境の効果は大きいと認識しています。

長寿県である長野県は、農業と農村で様々なプログラムを提案できる資源を有しているのでは ないでしょうか。

≪世界農業遺産の話≫

単なる農業だけでなく、生物多様性などと一体となった農業システムの認定制度です。

認定地域は、アジア、アフリカが中心で、地域特有の農業システムの保全が必要であり、日本 と中国で全認定38地域の半分を占めています。

農業遺産の認定に当っては、環境保全も重要な観点であり、農村景観、伝統的農村文化などのほか、農業生物多様性が注目されているのでその点も注目して頂きたい。

(農業遺産地域の紹介)

【宮崎県高千穂町の事例】

地形的にも厳しい条件の地域で、30年を1サイクルとした焼畑農法が残っています。 棚田が多く山腹水路を保全して、地域コミュニティを維持するシステム作っています。

【宮崎県日之影町の事例】

地域資源が豊富(棚田のほか農村歌舞伎などの伝統文化)で、再生可能エネルギー(小水力発電)の活用が特徴です。

銀行から借入、全戸が出資し企業に売電するなど、企業にも応援してもらい、地域で協働して取組を成功させています。

それぞれの市町村でテーマ(物語)を作って、企業に応援してもらう取組を考えればよいと思います。

【宮城県大崎市の事例】

田園地域が広がり、湿地が渡り鳥の飛来地として知られています。

市町村合併前の一部の取組を合併後の全域に広げていこうという戦略を立て、取組んでいます。

(結びに)

各地域、特徴ある水管理システムや人の繋がりの違いはあるが、生物多様性に注目して、自分の地域の田畑にどんな生物がいるか見つめてもらいたいと思います。

また、ため池にも多くの生き物が生息しており注目して頂きたいと思います。

生き物と共生しているか、生き物の力を借りた農業を進めることも生物多様性として重要であると思います。

環境保全型農業、生物多様性は、重要な着目点です。

都市側の課題と農山村の課題をつなぎ、組み合わせてテーマを持って、次のステージに進む取 組を考えて頂きたいと思います。

第2部 事例発表

長野県内で約800の活動組織の中から、「中山間地域」、「地域コミュニティ」、「組織の広域化」の三つのキーワードをテーマに、特徴的な取組を行っている3組織に事例発表をして頂きました。

事例1「中山間地域を元気にする取組事例」

組織名:草尾農地・水・環境保全向上対策活動組合(生坂村)

発表者:(代表) 竹内 勇 氏

【発表概要】

草尾農地・水・環境保全向上対策活動組合が活動する生坂村は、長野県のほぼ中央部に位置した人口約1800人の中山間地域で、主にぶどうなどの果樹を中心とした農山村です。

当該活動組織の対象農地は、約35haでその内3分の2が畑地で、巨峰などのぶどう生産が盛んで、約90名の構成員で、農地維持と共同活動を行っています。



地域の大きな課題は、鳥獣被害対策で電柵の補修管理を行っています。

また、貴重な用水確保のため、水路のパイプライン化に取組み、営農意欲の向上を図っています。 今後とも、地域の高齢化や担い手不足に対応するため、関係組織や行政と一丸となって、地域の 皆が協力して、高齢者が活躍できるよう工夫した取組みを継続していくこととしています。

事例2 「地域コミュニティを活発にする取組事例」

組織名:上黒田上段地域活動組織(飯田市)

発表者:(代表) 岩崎 守倫 氏



【発表概要】

上黒田上段地域活動組織は、長野県南部の主要都市飯田市の北西部に位置する主に畑地を対象に農地維持と共同活動を行っています。

対象農地は、約60haで、その7割強が果樹や野菜の畑地で、農家142戸に加え、農業者団体や地域団体など16団体で様々な取組みを展開しています。

多面的機能発揮支払制度の活用は、上黒田まちづくり委員会の地域活動の取組みを母体に、 自治会と連携した活動で、「農業者と市民が一緒になり、地域コミュニティを豊かにしよう」を合 言葉に、皆で農地を保全することをスタートに地域活性化の循環サイクルを描き実行していま す。その取り組みは、農地の保全はもとより、植栽など地域の景観保全、遊休農地を活用 したそば生産、地域の農産物を活用したイベントなど多岐に亘っています。

上黒田地域は農村地帯ではありますが、現在は約半数が非農家であり、農家・非農家が共 同で地域カアップに取組んでいます。

事例3「組織の広域化を進める取組事例」

組織名:松川村すずむしの里保全組織委員会(松川村)

発表者:(事務局) 青木 秀之 氏

【発表概要】

松川村は、長野県の北西部に位置する人口10,000 人の農村で、農業は主に水稲が中心の米どころで、松 川村すずむしの里保全組織委員会は、村に20ある活 動組織を広域化した県内でもモデル的な活動組織で す。

対象農地は約930haで、農地維持、共同活動、長寿 命化の全ての活動に取組んでいます。

従来の活動では、事業計画や日常の取組、諸手続な どその事務処理に負担が拡大していたことから、村全



体を一つの組織に広域化して事務局に専任スタッフを配置して効率的な組織運営を図っています。組織の広域化により、従来の小さな組織ではできなかった比較規模の大きな活動が柔軟

にできることなどのメリットを最大限に活かしています。

広域化する前の活動組織は、従来どおりの活動を続け事務負担が軽減され取組は順調に 行われていますので、新たな課題に対しても工夫した取組を展開して活動を継続していく こととしています。

研究発表

(演題:長野県の多面的機能支払交付金の「今後の使い方」を考える)



(講師紹介)

内川 義行(うちかわ よしゆき)氏

東京都出身、信州大学 農学部 助教(農学博士)

・略 歴: 長野県職員を経て、2000年に信州大学農学部

•委員等:

長野県多面的機能支払事業検討委員会委員 長野県公共事業評価監視委員会委員 千曲市名称「姨捨」整備委員会専門委員

・研究課題:棚田の保全と整備計画、中山間地域の地域づくり計画 中山間地域の農山村における地域の自立と維持に関する研究を、 棚田の保全・整備技術を軸に検討

内川氏は、長野県多面的機能支払事業検討委員として多面的機能支払制度には深く関わっていることから、制度の内容や活用方法に熟知しており、長野県の複雑な地形条件などの地域特性を考慮した活動には何が必要かといった観点で、特に急傾斜地の安全性に着目した法面小段の設置は、工法選択のための具体的なフローチャートが示されるなど、多くの組織の今後の課題解決の参考になったと推察します。

また、内川氏の研究成果でもある農地や水路を対象とした活動の事例が示され、参加組織の今後の活動の幅を広げる参考になったと考えます。

演題である多面的機能支払交付金の今後の使い方を活動組織の役員さんが考えるきっかけ作りになれば有意義であったと考えます。

第3部 意見交換

第1会場「中山間地域の活動の課題と展望」

中山間地域の活動に着目して、助言者として、 基調講演をお願いした大和田氏、研究発表を お願いした内川氏、長野県多面的機能支払事 業検討委員会の岩間委員長、事例発表をお願 いした草尾農地・水・環境保全向上対策活動組 合の竹内代表にご参加いただき、参加者 37 名 で行いました。



【課 題】

- ・中山間地域の課題は、高齢化と後継者不足、厳しい地形的条件でどこも共通。
- ・儲かる農業を営む必要はあるが、多面的機能の観点からの農業の持続も必要。
- 多面的機能交付金活動の特徴的な事例紹介は有効で情報共有が必要。
- •中山間地域に対する補助金は多数あるが、効率的な活用が必要。

【対応方向】

- ・地域の良い点を地域の皆の共通認識となるよう話し合いを重ねることが必要。
- ・地域の魅力を都会の人などに発信して移住などの対策につなげることが重要。
- ・他地域の情報を積極的に取り入れ、地域のものとして地域力のアップを狙う。





地域コミュニティなど地域活動に着目して、助言者として、長野県多面的機能支払事業検討委員会の熊谷委員、福嶋委員、事例発表をお願いした上黒田上段地域活動組織の岩崎代表にご参加いただき、参加者 46 名で行いました。

【課題】

- ・多面的機能支払い活動にいかに非農家の方を巻き込むかが問題。
- ・農地や水路に関すること以外にも農村環境や農村文化に関することも重要。
- ・高齢化で活動の継続(これから地域どうするかなど)が問題。

【対応方向】

- 農家と非農家が共通認識を共有することが重要で、そのためにも活動を楽しむことが必要。
- 農村地域であるので、地域の農産物を皆で食して楽しむなどの取組が有効。
- ・子ども(若年層)の参加を促して、長い目で見た後継者育成に取組みが重要。
- お年寄りと子どもの交流による農村文化の伝承も有効。
- ・今回のようなシンポジウムや研修会などを参考に、組織の皆様が工夫した活動をすることも重要。
- 活動を後押しするアドバイザイー制度も有効。

第3会場「取組活動の効率化を図るための広域組織化の課題と展望」

組織の広域化による活動の効率化に着目して、助言者として、当協議会の坂田指導員、事例発表をお願いした松川村すずむしの里保全組織委員会の青木氏にご参加いただき、参加者 30 名で行いました。



【課題】

- それぞれ違った形態の組織を広域化するには、地域に合った進め方が必要。
- 広域化に伴う事務局員の確保、事務局経費の捻出が必要。
- 広域化によって従来の組織への交付額が減額したのでは活動に支障が出る。
- 将来に亘っての予算措置が確保されるかが課題

【対応方向】

- それぞれの地域にあった広域化のため、広域化を主導する力が必要。
- ・地域にあった広域化を進めるマニュアル的なものがあれば有効。
- 広域化した場合、活動内容など工夫して交付金を活用することが重要

以上、

昨年 11 月に行われました長野県農業農村多面的機能発揮シンポジウム「我が郷の土・水・人の繋がりを考える集い」の内容でした。

(尚、シンポジウムの概要を報告書にまとめ配布を予定しております。)

Y 活動組織紹介

今回は、茅野市の下古田区農地・水・環境保全対策協議会を紹介します。

1.茅野市の取り組み状況

茅野市では、18 組織が多面的機能支払交付金事業に取り組んでいます。どの組織もとても精力的に活動を行い、農業の活性化に努めています。

2.下古田区農地•水•環境保全対策協議会

茅野市下古田区農地・水・環境保全対策協議会は、 茅野市東部の八ヶ岳の裾野に広がる農地約 16ha を 対象に、農地維持活動、共同活動を行っています。

対象面積は、広い面積ではありませんが、自治会と親密な連携のもと組織一丸となって、農村地域の 保全活動に取り組んでいます。

【地区データ】

• 取組面積 約 16ha

(水田 12ha、畑 4ha)

· 対象施設 開水路 8km

農道 0.6km

• 交付金 約70万円

(農地維持、共同)

平成 19 年度から農地の保全や地域の環境整備などの活動に取組んでおり、農地が荒廃してしまわないよう、地域住民との共同の草刈、農道の補修に加え、道路わきのスイセンの植栽などを進めています。

農地の荒廃化防止の共同草刈作業





水路の土砂上げ、草刈作業



スイセンの植栽と道路清掃作業



特に、農村の原風景である「わらにょう」作りは、農村文化の伝承の意味でも重要な取組の一つで、農村景観の保全と観光客増加も期待されています。



「わらにょう」は、昭和 30 年代頃まで田畑を耕す牛や馬の冬期間の保存食として、又次の年の農作業に使用する為に諏訪地域ではどこでも作られていたもので、八ヶ岳連峰の裾野に広がる田園風景に、諏訪地域独自の景観を造りだしていました。



「わらにょう」の製作には技術の伝承が重要ですが、現在、「わらにょう」作りの指導者として、14 名の「たくみ」が中心となって、農村文化の伝承に努めております。

取材にご協力をいただいた、倉澤会長や役員の皆様、茅野市役所の平田さんには感謝申し上 げます。

また、取材の日程調整など諏訪地域振興局の上原さんにお世話になりました。



¥ 喜務局から

今回は主にシンポジウムの内容報告をしました。多くの 皆様方に参加いただき、活動組織が直面している課題な どの意見交換会が実施され、盛会のうちに閉会されまし た。参加者並びに関係者の皆様有難うございました。

今後とも皆様の活動のお役に立つ情報を発信していき ますのでよろしくお願いいたします。

■問い合わせ先

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会 (担当:田中・白石)

TEL 026-219-6351 FAX 026-219-6352

Eメール nagano-tamenteki@wonder.ocn.ne.jp

URL http://www.nagano-nouchimizu.net/